

三浦海岸で磯の生物の観察会を行った。今年は生徒20名の大所帯だ。このフィールドワークは毎年の恒例になっているが、**5月に行くのは初めて**。この時期はウミウシが見つかりやすいと聞いていたので期待大だ。ウミウシ（海牛、Sea Slug）は、貝殻は無いけど**貝（軟体動物）の仲間**で、カラフルなものも多くて見た目も可愛いから発見するとみんなのテンションが上がる。今までの観察会では、ウミウシは1匹見つければ良い方で、そう簡単には見られなかった。ところがだ。今回は、**続々と見つかる見つかる**。

「ウミウシを見つけました！」という声が聞こえたかと思うと、「こっちも！」「私もを見つけました！」と次々に続く。1年のソウシは、最初はなかなか見つけれなかったが、ついにウミウシを見つけた時に「これで僕もチームに貢献できました！」と安堵していたのには笑ってしまった。それほど、この日はウミウシで盛り上がった。結局、アメフラシも含めて**合計で13種類のウミウシが見つかった**（もちろん、ウミウシ以外にもたくさんの生き物が見つかった）。こんなの初めてだ。時期が違うと、こうも違うものかぁ。後日、大学時代の友人のにっしー（現在、いおワールドかごしま水族館に勤めるウミウシ博士）に聞くと、ウミウシは「2～5月が一番見つけやすい」そうだ。

それに、**今回参加したみんなは猛者揃いだった**。立派な網を持参した人が何人もいたし、みんな生き物が大好きで勝手にどんどん探し出す。一番最初にウミウシを見つけた人のところに集まり、どこにいたのか問いただし、似たような場所を探し始める。そして、ウミウシに限らず、**面白い生き物が見つかるみんなと興奮しながら大盛り上がり**。いやー、生き物好きが集まるとじつに楽しいなあ。

参考：加藤昌一・小野篤司, 2015, ウミウシ 生きている海の妖精, 誠文堂新光社



磯採集の様子



色とりどりのウミウシたち



アオウミウシ

貝類（腹足綱）の中でも、鰓（えら）が後ろの方にある（正確には心臓より後ろにある）ものを「ウミウシ」と呼ぶ。貝殻の有無で分類しているわけではない。

裸鰓目 黄枠：イロウミウシ科 青枠：クロシタナシウミウシ科 緑枠：ドーリス科
紫枠：キヌハダウミウシ科 白枠：アオミノウミウシ科
無框目 黒枠：アメフラシ科



シラユキウミウシ



クロシタナシウミウシ



ヒメマダラウミウシ



ヤマトウミウシ



キヌハダウミウシ



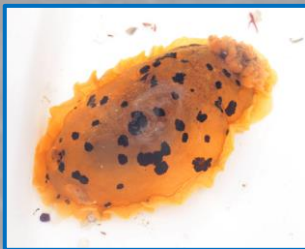
クロヘリアメフラシ



シロウミウシ



サラサウミウシ



マダラウミウシ



クモガタウミウシ



ムカデミノウミウシ



アメフラシとその卵塊